

# Adobe® AIR™ 1.1 リリースノート

2008 年 6 月 16 日

## 目次

Adobe AIR 1.1 の必要システム構成.....	2
AIR 1.1 の機能.....	3
アプリケーション記述子の変更.....	3
AIR 1.1 での API の追加.....	4
証明書の移行.....	6
Adobe AIR のインストール.....	6
AIR 1.1 ランタイムおよび AIR アプリケーションのインストール.....	6
シームレスインストール.....	6
AIR ベータランタイムの有効期限.....	6
ヒントとテクニック.....	7
Macintosh で Safari を使用して AIR アプリケーションを開く.....	7
Web サーバで AIR アプリケーション用に MIME タイプを設定する.....	7
adl - デバッグサポート.....	7
トラブルシューティング（エンドユーザ用）.....	7
PDF コンテンツが表示されない.....	7
SQL データベースおよび Mac OS 10.5 Time Machine 機能.....	7
AIR アプリケーションおよび MobyDock.....	7
Firefox がデフォルトのブラウザとして使用されない.....	8
トラブルシューティング（開発者用）.....	8
Windows の HTTP の制限.....	8
画像へのリンクが適切に読み込まれない.....	8
NativeMenuItem の data プロパティの使用.....	8
サポートされない URL スキーム.....	8
ContextMenu.visible プロパティ.....	8
少数民族言語の文字での China National Standard GB 18030-2000 のサポート.....	8
Tablet PC で HTML により読み込まれた SWF コンテンツでの仮想キーボード.....	8
Windows 64 ビット OS: 64 ビット Program Files フォルダへの AIR アプリケーションのインストール.....	9
Macintosh : PDF open パラメータでの app: URL スキームの使用.....	9
Vista での htmlText リンク.....	9
サンドボックスブリッジを通じて渡された Date JavaScript オブジェクトが元の型を失う.....	9

iframe の幅または高さを 100 %に設定すると、予期しない結果が生じる場合がある .....	9
DATE および DATETIME の列の類似性が AIR ベータバージョンに 対して互換性を持たない .....	9
列の類似性の動作が AIR ベータバージョンと互換性を持たない .....	10
Macintosh : フルスクリーンモードのときに、オーバーレイウィンドウで ドックとメニューバーが非表示にならない .....	10
NativeWindow.height が resize イベントで不適切に報告される .....	10
idleThreshold の設定 .....	10
コンソールへのトレース .....	10
URLRequest.requestHeaders へのヘッダー「Cookie」の受け渡し .....	10
コード署名で完全な証明書パスが必要 .....	11
NativeWindow.globalToScreen() メソッドから返される Point オブジェクトで、 非プライマリスクリーンの Y 値が正しくない .....	11
Windows での setAsDefaultApplication() およびファイル拡張子の関連付け .....	11
Windows Vista および Macintosh での removeAsDefaultApplication() およびファイル拡張子の関連付け .....	11
認証を伴うプロキシを使用する ADT .....	11
ドックアイコンのイベント登録 .....	11
NativeWindow の幅と高さ .....	11

## Adobe AIR 1.1 の必要システム構成

Adobe® AIR™ 1.1 は、次の最小ハードウェア設定でテストされています。

### Windows

- Intel® Pentium® III 1 GHz 以上のプロセッサ
- Microsoft® Windows® XP® Service Pack 2、Windows XP Tablet PC Edition、Windows Vista® Home Premium、Business、Ultimate または Enterprise (64 ビット版を含む)、Windows 2000 Service Pack 4、Windows 2003 Server
- 512 MB 以上の RAM

### Mac OS X

- Intel Core™ Duo 1.83 GHz 以上のプロセッサ、PowerPC® G4 1 GHz 以上のプロセッサ
- Mac® OS X® 10.4.11 または Mac OS X 10.5.2
- 512 MB 以上の RAM

## 言語のバージョン

Adobe AIR 1.1 のインストールエクスペリエンスとすべてのランタイム固有のダイアログが次の言語にローカライズされています。

- 繁体中国語
- 簡体中国語
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- 韓国語
- ポルトガル語（ブラジル）
- ロシア語
- スペイン語

## AIR 1.1 の機能

### アプリケーション記述子の変更

必須ではありませんが、AIR 1.1 ランタイムにバインドするアプリケーション記述子を更新することをお勧めします。

アプリケーション記述子を更新するには、xmlns 属性を次のように変更します。

`http://ns.adobe.com/air/application/1.1`

この操作は、アプリケーション記述子で新たにローカライズされた値または AIR 1.1 の新機能（以下を参照）を使用する場合に必要となります。

AIR 1.1 では、アプリケーション記述ファイルにある次の 2 つの要素のローカライズがサポートされています。

- name
- description

アプリケーション記述ファイルは、複数の言語を表示するために UTF-8 でエンコーディングする必要があります。

アプリケーションをローカライズする必要がない場合は、AIR 1.0 の場合と同様に、名前と説明を name エlement および description エlement の単純なテキスト子ノードとして含めることができます。アプリケーションをローカライズする場合は、name エlement および description エlement 内で子 text エlement を使用できます。2 つの方法を同時に使用することはできません。

子 <text> エレメントの使用例 :

```
<name>
    <text xml:lang="en">英語アプリケーション名</text>
    <text xml:lang="fr">フランス語アプリケーション名</text>
    <text xml:lang="de">ドイツ語アプリケーション名</text>
    <text xml:lang="ja">日本語アプリケーション名</text>
    <text xml:lang="es">スペイン語アプリケーション名</text>
    <text xml:lang="pt">ポルトガル語アプリケーション名</text>
    <text xml:lang="it">イタリア語アプリケーション名</text>
    <text xml:lang="zh_CN">簡体中国語アプリケーション名</text>
    <text xml:lang="zh_TW">繁体中国語アプリケーション名</text>
    <text xml:lang="ko">韓国語アプリケーション名</text>
    <text xml:lang="ru">ロシア語アプリケーション名</text>
</name>
```

## AIR 1.1 での API の追加

### SQL

- `SQLException.detailID` : int
- `SQLException.detailArguments` : Array

AIR では `SQLException.details` プロパティ値はローカライズされていませんが、SQL データベース管理ツールなど、一部のデータベースアプリケーションでは、この情報をローカライズしておくことが便利です。`SQLException` の追加プロパティを使用すれば、開発者はこれらの文字列をローカライズすることができます。

例 :

```
var conn:SQLConnection = new SQLConnection();
var dbFile:File =
File.applicationStorageDirectory.resolvePath("DBSample.db");
// データベースには、列 employeeID、firstName、lastName、birthday
// を含むテーブル「employee」があります

conn.open();

try {
    var selectStatement:SQLStatement = new SQLStatement();
    selectStatement.sqlConnection = conn;
    selectStatement.text = "SELECT name FROM employee;";
    selectStatement.execute();
} catch (err:SQLException) {
    // 列「name」が存在しないので、エラーがスローされます
    localizeError(SQLException);
}
```

```

}

function localizeError(e:SQLError):void {
    var argsLength:int = e.detailArguments.length;
    switch (e.detailID) {
        case 2030:
            // デフォルトの詳細な文字列: "トリガ '%s' は既に存在します"
            // 処理を行う
            break;
        // ... それ以外の場合 ...
        case 2036:
            // デフォルトの詳細な文字列: "次の列は存在しません: '%s[.%.s[.%.s]]'"
            var colPath:String = "";
            if (argsLength == 1) {
                colPath = e.detailArguments[0];
            } else if (argsLength == 2) {
                colPath = e.detailArguments[0]+"."+e.detailArguments[1];
            } else if (argsLength == 3) {
                colPath =
e.detailArguments[0]+"."+e.detailArguments[1]+"."+e.detailArguments[2];
            }
            // または、ローカライズされた文字列を生成するためにロケール情報を使用し
ます
            displayLocalizedDetail("Column '" + colPath + "' does not
exist.");
            break;
        default:
            displayLocalizedDetail(e.details);
    }
}

function displayLocalizedDetail(str:String):void {
    // エラーの詳細を表示します
}

```

## NativeWindow

- NativeWindow.supportsTransparency : Boolean

このプロパティは、オペレーティングシステムで透明なウィンドウを描画できるかどうかを示します。このプロパティの値は、Windows および Macintosh では常に true です。Linux では、このプロパティの値は Linux ディストリビューションの設定に応じて異なります。

## Capabilities

- `Capabilities.languages` : Array

ユーザがオペレーティングシステムで使用頻度の高い順に指定した言語コードの配列です。この設定はコントロールパネルまたはシステム環境設定で行います。

## File

- `File.spaceAvailable` : Number

このファイルの場所で使用可能な空き領域（バイト）を返します。ファイルの場所が存在しない場合は、0 が返されます。File オブジェクトの状態が無効である場合、`IllegalOperationError` 例外がスローされます。

## 証明書の移行

AIR 1.1 SDK に含まれる ADT のバージョンには、アプリケーションの ID を維持しながら、古い証明書から新しい証明書（例えば自己署名の証明書からチェーン化された証明書）にアプリケーションを更新できる新しいオプションが用意されています。

```
> adt -migrate SIGNING-OPTIONS <air-file-in> <air-file-out>
```

最初に `<air-file-in>` ファイルを新しい証明書により署名し、次に `-migrate` コマンドを使用して古い証明書を `SIGNING_OPTIONS` に渡します。

このコマンドは、入力として AIR ファイルを受け取り、出力として AIR ファイルを作成します。AIR ファイルには 1 つの移行署名しか含めることができないので、入力ファイルに既に署名が含まれる場合にはエラーになります。

## Adobe AIR のインストール

### AIR 1.1 ランタイムおよび AIR アプリケーションのインストール

AIR 1.1 ランタイムおよび AIR アプリケーションをインストールするには、管理者権限が必要です。

### シームレスインストール

Adobe AIR 1.1 のシームレスインストール機能を使用するには、Flash Player 9 アップデート 3（バージョン 9.0.115）が必要です。カスタマイズ可能なシームレスインストール機能には、サンプルバッジが提供されています。

### AIR ベータ ランタイムの有効期限

Adobe AIR アルファ 1、ベータ 1 およびベータ 2 のランタイムの有効期限が切れました。これらのランタイム用に構築されたアプリケーションを実行するには、アプリケーションを AIR 1.0.x または 1.1 にアップグレードする必要があります。Adobe AIR ベータ 3 は 2008 年 11 月 1 日に有効期限が切れます。この期限が切れた後は、ベータ 3 ランタイム用に構築されたすべての AIR アプリケーションを AIR 1.0.x または 1.1 にアップデートする必要があります。ユーザは、期限切れのランタイム用に開発されたアプリケーションをインストールまたは実行することはできません。

## ヒントとテクニック

### Macintosh で Safari を使用して AIR アプリケーションを開く

Mac OS X の Safari では、AIR アプリケーションをインストールするためにリンクをクリックした場合、アプリケーションはインストールされるのではなく、Mac OS 10.4 (Tiger) の場合はデスクトップに、Mac OS 10.5 (Leopard) の場合はダウンロードフォルダにダウンロードされます。その後、ダウンロードされた .air ファイルをダブルクリックしてアプリケーションをインストールできます。

### Web サーバで AIR アプリケーション用に MIME タイプを設定する

クライアントブラウザでダウンロード中の AIR アプリケーションを認識するためには、AIR アプリケーションをホストする Web サーバで、`application/vnd.adobe.air-application-installer-package+zip` MIME コンテンツタイプを「.air」拡張子にマップする必要があります。例えば Apache Web サーバの場合、次を `AddType` セクションに追加します。

```
AddType application/vnd.adobe.air-application-installer-package+zip .air
```

### adl - デバッグサポート

ADL を使用してアプリケーションを起動するときに、デバッグサポートがデフォルトで有効になります。デバッグサポートを使用すると、ランタイムによる追加チェックおよび Flex Builder からのデバッグ情報を含む追加のデバッグ情報の生成が実行され、さらに処理されていない例外のダイアログが表示されます。またデバッグサポートの使用中は、アプリケーションの実行速度が低下する場合があります。-nodebug フラグを設定して adl を使用すると、デバッグサポートが無効になります。また、-nodebug フラグを設定して実行すると、インストールされたアプリケーションの実行モードの動作により近くなります。

## トラブルシューティング (エンドユーザ用)

### PDF コンテンツが表示されない

AIR で PDF コンテンツを表示するには、Adobe Reader 8.1 以降をインストールしてください。

### SQL データベースおよび Mac OS 10.5 Time Machine 機能

一部の SQL データベーストランザクションの実行中に Mac OS 10.5 Time Machine を実行すると、データベースに不整合が生じる可能性があります。この回避策は、Time Machine による自動バックアップの対象からデータベースを除外することです。

### AIR アプリケーションおよび MobyDock

Windows 用のカスタマイズ可能なフリーウェアタスクバーアプリケーションである MobyDock により、AIR アプリケーションの実行が妨げられます。AIR アプリケーションのインストール中および実行中は、MobyDock を終了してください。

## Firefox がデフォルトのブラウザとして使用されない

Windows Vista では、AIR アプリケーションから Web ページを開く (`navigateToURL()` メソッドを呼び出す) と、デフォルトのブラウザが開かない場合があります。この場合、常に Internet Explorer が開きます。この問題を回避するには、スタート/既定のプログラム/プログラムのアクセスとコンピュータの既定の設定を選択し、「カスタム」を展開します。次に、システム全体のデフォルトのブラウザ (例えば Mozilla Firefox) として設定するアプリケーションの横にあるラジオボタンを選択し、設定を適用します。

## トラブルシューティング (開発者用)

### Windows の HTTP の制限

Windows では、PUT メソッド、POST メソッド、または DELETE メソッドからの自動リダイレクトはサポートされません。また HTTP 応答の flat または gzip の解凍もサポートされません。

### 画像へのリンクが適切に読み込まれない

(HTML ページではなく) 画像を読み込むためのリンクをクリックしても、画像がレンダリングされず、画像のバイト数が表示されます。

### NativeMenuItem の data プロパティの使用

このリリースでは、`NativeMenuItem.data` プロパティの `int` オブジェクトまたは `Number` オブジェクトがサポートされません。

### サポートされない URL スキーム

サポートされない URL スキームを JavaScript から呼び出した場合、通知されることなく失敗します。例えば、アプリケーションセキュリティサンドボックスで `<a href="javascript:alert()">` (これはサポートされていません) へのリンクをクリックすると、例外がスローされず、通知されることなく失敗します。

### ContextMenu.visible プロパティ

`ContextMenu.visible` プロパティを設定しても無効になります。アイテムは常に表示されます。

### 少数民族言語の文字での China National Standard GB 18030-2000 のサポート

チベット文字などの少数民族言語の文字が AIR アプリケーションで正しく表示されない場合があります。

### Tablet PC で HTML により読み込まれた SWF コンテンツでの仮想キーボード

Tablet PC の仮想キーボード機能は、AIR SWF および HTML アプリケーションでは動作しますが、HTML により読み込まれた SWF コンテンツでは動作しません。

## Windows 64 ビット OS: 64 ビット Program Files フォルダへの AIR アプリケーションのインストール

64 ビットの Program Files フォルダに AIR アプリケーションをインストールすると、アプリケーションをインストールできないことを通知するエラーがスローされます。ただし、その場合でもアプリケーションは Program Files(x86) フォルダにインストールされます。

## Macintosh : PDF open パラメータでの app: URL スキームの使用

Macintosh では、PDF open パラメータで app: URL スキームを使用すると (app:/myfiles/test.pdf#page=2 など)、読み込みが完了しません。

## Vista での htmlText リンク

Windows Vista では、Flex <mx:text> エレメントの htmlText リンクは、Firefox がデフォルトのブラウザとして設定されている場合でも Internet Explorer でしか開きません。

## サンドボックスブリッジを通じて渡された Date JavaScript オブジェクトが元の型を失う

この問題を回避するには、データを直列化し、日時をミリ秒として渡します。

## iframe の幅または高さを 100 % に設定すると、予期しない結果が生じる場合がある

この問題を回避するには、iframe を 100 %未満の値に設定します。

## DATE および DATETIME の列の類似性が AIR ベータバージョンに対して互換性を持たない

AIR 1.0 以降で SQL データベース用の「DATE」列および「DATETIME」列の類似性が変更されており、ベータバージョンに対する互換性がありません。類似性 (列の型) として「DATE」または「DATETIME」を使用する既存のデータベースファイルが存在する場合、適切に動作させるためにはそれらのテーブルを再設定する必要があります。

```
// テーブルは、次の SQL - CREATE TABLE post (id INTEGER PRIMARY KEY,
post_date DATE, title TEXT, content TEXT, author_id INTEGER); を使用して作成
されました
```

```
// 日付を整数にキャストする既存のテーブルからデータを選択します (これにより、不適切な
ユリウス日変換を回避します)
```

```
sql.text = "select id, cast (post_date as integer) as p_date from
post;";
```

```
sql.clearParameters();
```

```
sql.execute();
```

```
// 新しい値でテーブルを更新します
```

```
var result:SQLResult = sql.getResult();
```

```
feeds.dataProvider = result.data;
```

```
sql.text = "update post set post_date = :d where id = :id;";
```

```
for (i=0; i<result.data.length; i++)
```

```
{
```

```
    sql.parameters[":id"] = i;
```

```
    sql.parameters[":d"] = new Date(result.data[i].p_date);
```

```
    sql.execute();
```

```
}
```

## 列の類似性の動作が AIR ベータバージョンと互換性を持たない

列に宣言された型（類似性）がある場合、この列により行を正常に挿入できなくなる可能性があります。AIR 1.0 以降では、列の型が強制的に指定されます。列で指定された値が列の宣言型（類似性）に正常に変換できない場合、更新 / 挿入操作は失敗します。次に例を示します。

```
// テーブルは、次の SQL- CREATE TABLE x (a INTEGER PRIMARY KEY, b INTEGER);  
を使用して作成されました
```

```
sql.text = "INSERT INTO x VALUES (1, 5.5);"
```

```
sql.execute(); // 列 b (5.5) で指定された値は整数値ではないので、この挿入は失敗し  
ます
```

```
// テーブルは、次の SQL- CREATE TABLE y (a INTEGER PRIMARY KEY, b DATE); を使  
用して作成されました
```

```
sql.text = "INSERT INTO y (1, '');"
```

```
sql.execute(); // 列 b ('') で指定された値が日付に変換できないので、この挿入は失敗  
します
```

## Macintosh : フルスクリーンモードのときに、オーバーレイウィンドウでドックとメニューバーが非表示にならない

Macintosh でフルスクリーンウィンドウの上にオーバーレイウィンドウが位置する場合、アプリケーションメニューバーおよびシステムドックが非表示になりません。これを解決するには、フローティングウィンドウの `type` を `NativeWindow.lightweight` に設定します。

## NativeWindow.height が resize イベントで不適切に報告される

`resize` イベントハンドラでの読み取り時に、`NativeWindow.height` プロパティが不適切に報告されます。この問題を回避するには、代わりにイベントの `afterBounds.height` プロパティを使用します。

## idleThreshold の設定

`userIdle` イベントを登録した後、`NativeApplication` オブジェクトの `idleThreshold` プロパティを設定すると、設定した値ではなくデフォルトの `idleThreshold` 設定が取得されます。この問題を回避するには、イベントハンドラの登録を解除し、しきい値を設定して再登録します。

## コンソールへのトレース

システムにパラメータ `TraceOutputFileEnable=1` を含む `mm.cfg` ファイルがある場合、トレース出力はコンソールに送信されません。この問題を回避するには、このパラメータを `mm.cfg` ファイルから削除します。`mm.cfg` ファイルは、Windows では `c:\¥Documents and Settings¥<ユーザ名>`、Macintosh では `/Users/<ユーザ名>` にあります。

## URLRequest.requestHeaders へのヘッダー「Cookie」の受け渡し

`manageCookies=true` がサーバに送信されない場合に、ヘッダー「Cookie」を `URLRequest` オブジェクトの `requestHeaders` プロパティに渡します。

## コード署名で完全な証明書パスが必要

一部の認証機関（VeriSign など）は、デフォルトでは完全な証明書パスを提供していませんが、AIR アプリケーションの署名では完全な証明書パスが必要となります。完全な証明書チェーンを含むキーストアの作成については、<http://access1.sun.com/techarticles/Keytool.html> を参照してください。

## NativeWindow.globalToScreen() メソッドから返される Point オブジェクトで、非プライマリスクリーンの Y 値が正しくない

複数のモニタを使用する一部の設定でメインスクリーン画面の位置をパラメータが反映しない場合に、NativeWindow.globalToScreen() メソッドにより返される Y 値が正確でない場合があります。

## Windows での setAsDefaultApplication() およびファイル拡張子の関連付け

Windows では、ユーザが拡張子に関連付けるアプリケーションをエクスプローラで選択すると、NativeApplication.setAsDefaultApplication() を使用してもデフォルトのアプリケーションとして AIR アプリケーションを設定できません。

## Windows Vista および Macintosh での removeAsDefaultApplication() およびファイル拡張子の関連付け

システムに登録されたファイル拡張子に他のハンドラが存在しない場合に、NativeApplication.removeAsDefaultApplication() を使用しても AIR アプリケーションとファイル拡張子の関連付けは削除されません。

## 認証を伴うプロキシを使用する ADT

現在 ADT は認証を必要とするプロキシ設定では動作しません。

## ドックアイコンのイベント登録

Macintosh では、ドックアイコン上で NativeMenu.addItemAt(item, 0) を使用すると、その下のすべてのメニューアイテムで select イベントハンドラが失われます。この問題を回避するには、NativeMenu.addItem() を使用します。メニューアイテムの上に最後に追加したアイテムを表示するには、古いメニューを破棄した後、新しいメニューを作成します。

## NativeWindow の幅と高さ

1 つの同期関数で NativeWindow オブジェクトの width プロパティ、height プロパティまたは bounds プロパティを設定した場合、そのプロパティを resize イベントのハンドラでチェックすると、正確でない値が height で報告されます。